

仙台市文化財パンフレット第84集

資料からみる

仙台城大手門



大手門の沿革

仙台城大手門は江戸時代を通して仙台城全体の正門であり、明治時代以降は陸軍第二師団司令部の正門として使われていました。

昭和6年には大手門脇櫓とともに国宝に指定され、市民に広く知られていましたが、昭和20年7月の仙台空襲により脇櫓とともに焼失しました。

現在は、石垣や土塀、再建された脇櫓の姿から当時の姿が偲べれます。



仙台城と大手門の位置



焼失前の大手門の様子(昭和初期)



現在の大手門周辺の様子

大手門復元関連基礎調査について

仙台市教育委員会では、将来の大手門の復元に向けて、大手門復元関連基礎調査を実施してきました。

この調査は、大手門の復元および周辺の整備に必要な情報収集を目的としています。本書ではこれまでの調査成果について報告します。

調査の一覧

調査の対象		内容
(1) 絵図・絵画	46点	近世に作成された絵図類
(2) 古写真・映像資料	97点	明治から昭和に撮影された写真・絵葉書等
(3) 伝世資料	3例	大手門で使用されたと考えられる金具類
(4) 発掘調査(令和6年度現在)	2カ年	柱の痕跡(礎石跡)と雨落ち溝(石組側溝)
(5) 測量調査	3業務	現地に残存する石垣 周辺地形の測量
(6) 文献・図面	7点	明治期の修理記録と昭和の実測図
(7) 類例調査	11事例	同時期・同種の建造物、およびその記録類

MONKEY MAJIKからの 応援メッセージ

大手門は仙台の歴史や町の中でシンボルとなる存在。復元することで地元にも愛され、外からも人が集まる魅力的な場所になっていくと思います。みんなの自慢となるような大手門復元に向けて、僕たちMONKEY MAJIKもPRを頑張っていきます。

※MONKEY MAJIK…Maynard、Blaise、DICK、TAXからなる、仙台を拠点に活動する4人組ロックバンド。令和6年から「史跡仙台城跡PRアンバサダー」に就任。



絵図に描かれる大手門

大手門創建の正確な年代は不明で、築城期（慶長期：1596～1615）の建築とする説や、二の丸造営時（寛永期：1624～1644）の建築とする説などがあります。史料上では、『伊達治家記録』での記述が初出で、寛永16年（1639）12月20日の「去る五月廿六日より今日まで、御倉・大手御門・大書院・大広間・舞台・御歩行間、上棟あり」という記事が残されています。ここでの「大手御門」が指す内容や、建築様式からみた年代観などによって、意見が分かれています。正保2年（1645）の絵図には既に現在の位置に描かれており、それまでには建設されていたものと考えられます。

「奥州仙台城絵図」

正保2年（1645）



仙台市博物館蔵

「仙台城修復伺絵図」

寛文8年（1668）



仙台市博物館蔵

「仙台城絵図」

寛文年間（1661～1672）



仙台市博物館蔵

大手門は、仙台城を描いた最古の絵図である正保2年（1645）作成の『奥州仙台城絵図』を初出として、江戸時代を通して絵図に姿が確認できます。正保2年から現在の位置に描かれており、二階建てで、脇櫓と土堀との位置関係も現在と同様です。その後には作成された絵図でも同様の表現で描かれており、江戸時代を通して位置の変化はなかったものと考えられます。

「仙台城修復窺絵図」

元禄7年（1694）



仙台市博物館蔵

「仙台城修復伺絵図」

享保13年（1728）



仙台市博物館蔵

「仙台城下絵図」

寛政元年（1789）頃



仙台市博物館蔵

正保年間（1644～1648）から寛文年間（1661～1673）にかけての絵図では、脇櫓の壁の下半部が黒く塗られており、明治時代の写真（p5）に近い姿となっています。大手門についても正面の窓の書き込みの違いや、屋根に鯰瓦状の突起があるものなど、江戸時代の姿と後世の姿の違いを考える上で重要な情報が得られます。

写真で見る往時の大手門

大手門は屋根に^{しゃちがわら}鯨瓦を頂く^{かわらぶ}本瓦葺きの二階建ての門です。

1階は正面七間、桁行^{けたゆき}約65尺(約19.7m)、梁間^{はりま}22尺3寸(約6.8m)、高さ約12.5mの規模があり、全国的に見ても稀有^{けう}の大きな門であったことで知られています。



大手門正面

仙台市博物館蔵



大手門背面

仙台市博物館蔵

●門に施された装飾

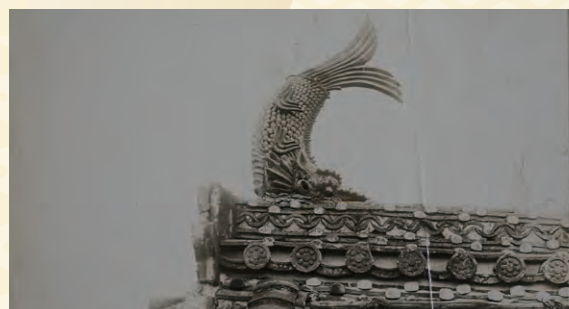


大手門正面の様子

仙台市博物館蔵

門を飾る彫刻類は木彫に漆の下地に金箔を置いたもので、正面には大きな菊花文・桐文を配する重厚な意匠でした。金具には鉄や青銅製のものが用いられており、写真からは飾金具や釘隠しの様子が確認できます。

これらの菊花文・桐文や屋根の鯰瓦については明治時代の修復時に設置されたと考えられており、江戸時代にもついていたのか更なる検討が必要です。



鯰瓦

仙台市博物館蔵



彫刻(左:桐文、右:菊花文)

仙台市博物館蔵

●梅津コレクションと東北大学の調査

梅津コレクションは仙台在住の収集家で郷土史家でもあった故・梅津幸次郎氏が集めた約2万点にもおよぶ資料です。東北大学災害科学国際研究所の佐藤大介准教授と学生による史料調査で、仙台城大手門に実際に使われた金具類や、明治時代に新しく装飾を追加した経緯を示す記録などが確認され、江戸時代の大手門の姿を知る上で貴重な資料です。



「通称大手門 昭和二十年七月十日戦災焼失」と記された箱のふた書き



飾金具

釘3種類

乳金具(釘隠し)

箱に収められていた金具

写真提供: 東北大学災害科学国際研究所・佐藤大介

大手門周辺の移り変わり

大手門の姿は、写真や絵葉書に数多く残されています。これらの写真には門の姿だけでなく周辺の様子も写されており、周辺の構築物の有無を手がかりに、撮影時期を絞り込むことができます。大手門周辺の明治から昭和の焼失時までの変遷を示す貴重な資料となっています。

I. 二の丸御殿焼失前の大手門遠景（撮影時期：～明治15年）



仙台市博物館蔵

左写真大手門周辺拡大



脇櫓の壁の下側が黒く塗られている

クランク状の道

鯰瓦なし

焼失前の
二の丸御殿
(明治15年焼失)

明治時代到大橋から大手門の方面を写した写真です。明治23年(1890)に陸軍第二師団によって修繕が行われる前であり、その後の写真と比較すると、大手門・大手門脇櫓の様子に細かな違いが見られます。

この当時は大手門前面の道はクランク状になっていますが、明治25年(1892)に大橋が鉄橋に造りかえられた際に、大橋と大手門が直線の道で結ばれます。

II. 第二師団の正門期 (撮影時期：明治25年(1892)～大正14年(1925))



歩哨詰所

第二師団の標札

仙台市博物館蔵

III. 一般開放後の大手門 (撮影時期：大正14年(1925)～昭和10年(1935))



VIEW OF OTEMON GATE IN AOMORI CASTLE, SENDAI.
門手大城書上御手筆の古(所名鑑別)

写真IIは、陸軍第二師団の正門として使用されていた時期の写真です。正面左側には歩哨詰所があり、扉の右手には「第二師団」の標札が確認できます。軍服を来た人びとが行き交う様子が見られ、この時期を特徴づける風景となっています。

写真IIIは、一般開放された後の大手門の姿です。門の前面にあった歩哨詰所は撤去され、扉横の標札も撤去されています。